調　査　結　果　の　概　要

1　発育状態

（1）　身　長　　（表１、表２、図１、図２、統計表１、統計表２）

①　平成 21 年度の男子の身長は、6 歳、8 歳から 10 歳、15 歳から 17 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、6 歳が 117.5㎝、8 歳が 129.1㎝で調査開始以来最高（過去最高と同値を含む。以下「過去最高」という。）となった。

女子の身長は、5 歳から 11 歳、14 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

②　平成 21 年度の身長を 30 年前の昭和 54 年度（親の世代）と比較すると、男子、女子ともに 5 歳から 17 歳のすべての年齢で親の世代を上回り、最も差がある年齢は男子が 12 歳で 3.4㎝、女子では 9 歳及び 11 歳で 1.9㎝高くなっている。

③　平成 21 年度の身長を全国平均値と比較すると、男子は 5 歳から 17 歳のすべての年齢で全国平均値を上回っている。女子は 8 歳及び 13 歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

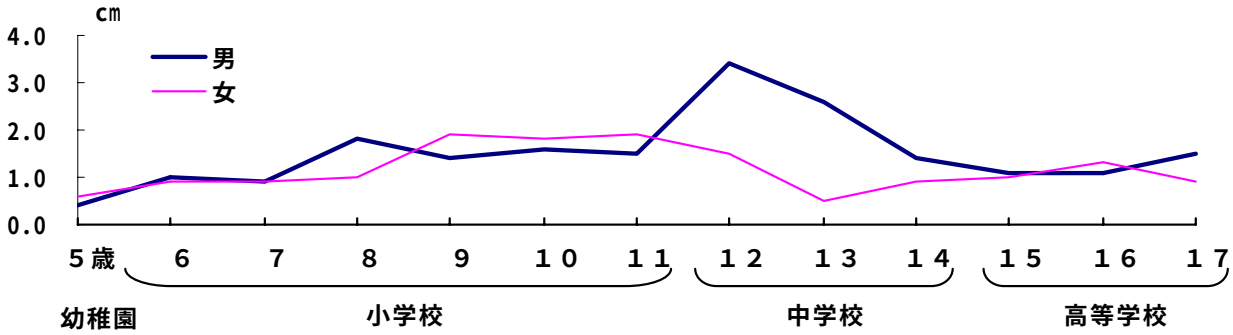
表１　年齢別身長の平均値

（単位：cm）

区分		男子							女子						
		平成21年度 A	平成20年度 B	A-B	昭和54年度（親の世代） C	A-C	平成21年度全国平均 D	A-D	平成21年度 E	平成20年度 F	E-F	昭和54年度（親の世代） G	E-G	平成21年度全国平均 H	E-H
幼稚園	5歳	110.8	111.1	△ 0.3	110.4	0.4	110.7	0.1	110.1	109.8	0.3	109.5	0.6	109.9	0.2
小学校	6歳	117.5	117.0	0.5	116.5	1.0	116.7	0.8	116.1	116.0	0.1	115.2	0.9	115.8	0.3
	7歳	122.9	123.0	△ 0.1	122.0	0.9	122.6	0.3	122.2	122.0	0.2	121.3	0.9	121.7	0.5
	8歳	129.1	128.7	0.4	127.3	1.8	128.3	0.8	127.4	127.3	0.1	126.4	1.0	127.5	△ 0.1
	9歳	133.9	133.8	0.1	132.5	1.4	133.6	0.3	134.1	133.8	0.3	132.2	1.9	133.5	0.6
	10歳	139.5	139.1	0.4	137.9	1.6	138.9	0.6	140.4	140.0	0.4	138.6	1.8	140.3	0.1
	11歳	145.4	146.4	△ 1.0	143.9	1.5	145.1	0.3	147.4	146.8	0.6	145.5	1.9	146.9	0.5
中学校	12歳	152.9	153.6	△ 0.7	149.5	3.4	152.5	0.4	152.2	152.7	△ 0.5	150.7	1.5	151.9	0.3
	13歳	160.3	160.6	△ 0.3	157.7	2.6	159.7	0.6	154.8	155.7	△ 0.9	154.3	0.5	154.9	△ 0.1
	14歳	166.0	166.5	△ 0.5	163.6	2.4	165.2	0.8	157.1	156.9	0.2	156.2	0.9	156.7	0.4
高等学校	15歳	168.8	168.4	0.4	167.7	1.1	168.5	0.3	157.6	157.6	0.0	156.6	1.0	157.3	0.3
	16歳	170.2	170.0	0.2	169.1	1.1	169.9	0.3	158.2	158.4	△ 0.2	156.9	1.3	157.7	0.5
	17歳	171.2	170.6	0.6	169.7	1.5	170.8	0.4	158.1	158.7	△ 0.6	157.2	0.9	157.9	0.2

注）平成21年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む）を網掛けで示している。

図１　平成21年度と昭和54年度（親の世代）との身長の差



注）身長の差は、都の平成 21 年度平均値から昭和 54 年度(親の世代)平均値を差し引いたものである。

④　平成 3 年度生まれ（平成 21 年度 17 歳）の年間発育量をみると、男子では 11 歳から 12 歳時に発育量が著しく増加しており、11 歳時に最大の発育量を示している。女子は 10 歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は、女子のほうが男子に比べ 1 歳早くなっている。

また、この発育量を昭和 36 年度生まれ（親の世代の 17 歳）と比較すると、男子で年間発育量が最大となる時期が親の世代より 1 歳早い 11 歳となっており、女子では親の世代より 1 歳遅く 10 歳となっている。

表２　平成3年度生まれと昭和36年度生まれの年間発育量の比較（身長）

（単位：cm）

区分		男子		女子	
		平成3年度生まれ（平成21年度17歳）	昭和36年度生まれ（親の世代の17歳）	平成3年度生まれ（平成21年度17歳）	昭和36年度生まれ（親の世代の17歳）
幼稚園	5歳	6.3	5.4	6.3	5.3
小学校	6歳	5.6	5.8	5.4	6.2
	7歳	5.6	4.8	5.7	4.6
	8歳	5.6	5.1	6.0	5.7
	9歳	5.0	5.9	6.2	7.1
	10歳	6.6	5.6	7.9	6.7
	11歳	7.6	7.3	4.9	6.3
中学校	12歳	7.5	8.8	2.9	3.5
	13歳	5.4	5.1	1.6	1.6
	14歳	3.5	3.8	0.4	0.9
高等学校	15歳	0.4	1.3	0.9	0.3
	16歳	1.2	1.3	△ 0.3	0.5
総発育量		60.3	60.2	47.9	48.7

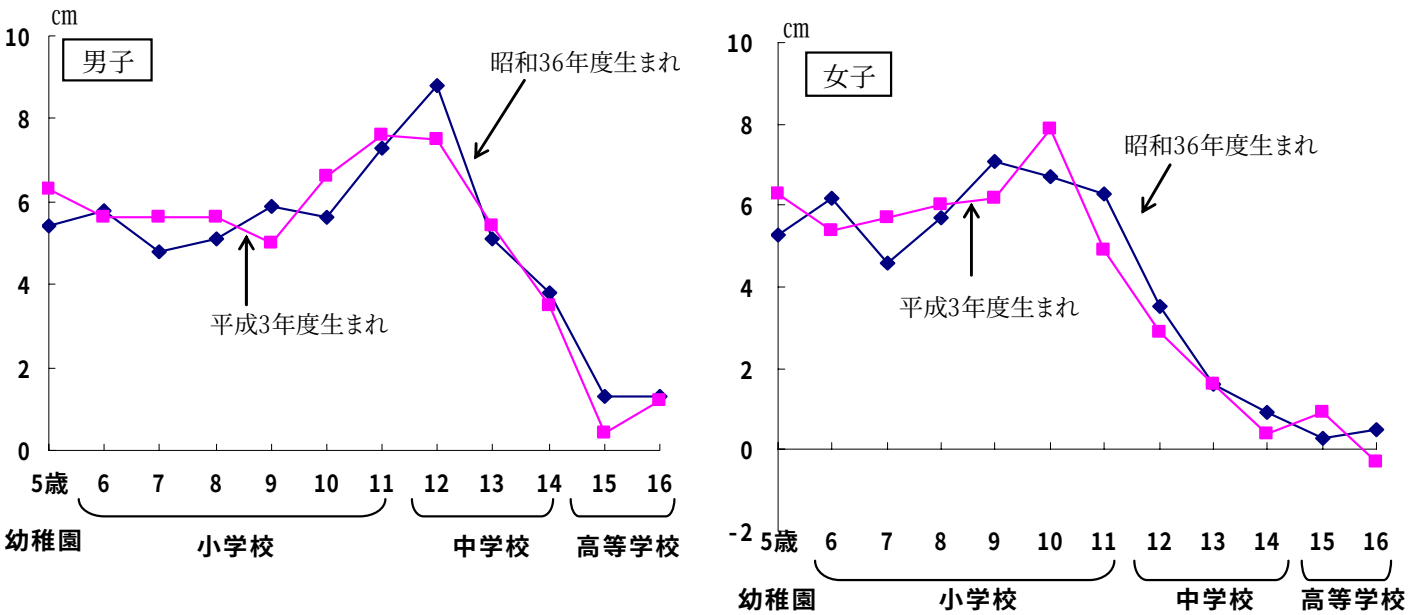
注1)　年間発育量とは、例えば、平成3年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成10年度調査6歳の者の体位から平成9年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

2)　調査対象が異なるため、平成3年度生まれ16歳女子はマイナスとなった。

3)　網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

4)　昭和36年度生まれの8歳と9歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。

図２　平成 3 年度生まれと昭和 36 年度生まれの年間発育量の比較（身長）



（2） 体　重　　（表３、表４、図３、図４、統計表１、統計表３）

① 平成 21 年度の男子の体重は、6 歳、8 歳、10 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。
女子の体重は、5 歳、6 歳、9 歳、11 歳及び 14 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

② 平成 21 年度の体重を昭和 54 年度生まれ（親の世代）と比較すると、男子は 5 歳を除く各年齢で、女子は 13 歳及び 15 歳を除く各年齢で上回っている。また、最も親の世代との差があるのは男子は 12 歳で 2.7kg、女子では 11 歳で 1.6kg 重くなっている。

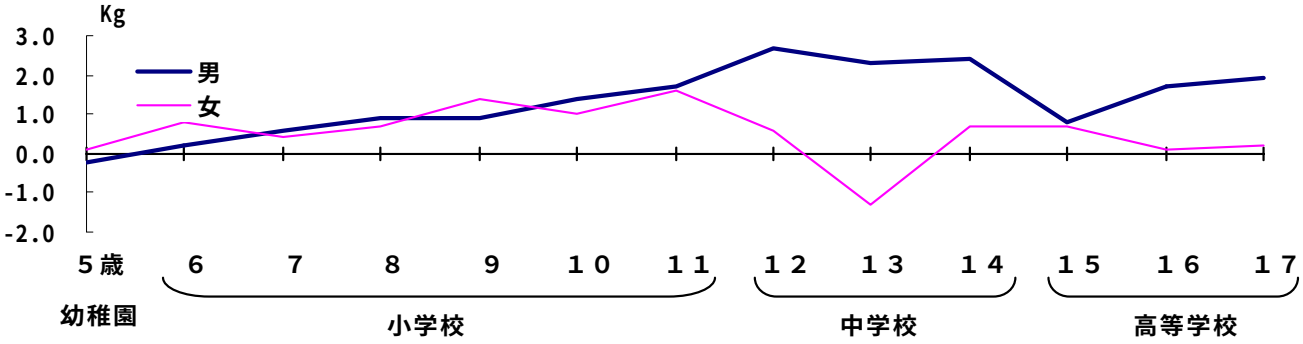
③ 平成 21 年度の体重を全国平均値と比較すると、男子は 5 歳、9 歳、15 歳、17 歳を除く各年齢で全国平均値を上回り、特に 13 歳では 1.0 kg全国平均値を上回っている。
女子は 5 歳、6 歳、7 歳、9 歳及び 11 歳を除く各年齢で全国平均値を下回っており、特に 13 歳では 1.0 kg全国平均値を下回っている。

表３　年齢別体重の平均値

（単位：kg）

区分		男子							女子						
		平成21年度 A	平成20年度 B	A-B	昭和54年度（親の世代） C	A-C	平成21年度全国平均 D	A-D	平成21年度 E	平成20年度 F	E-F	昭和54年度（親の世代） G	E-G	平成21年度全国平均 H	E-H
幼稚園	5歳	19.0	19.1	△ 0.1	19.2	△ 0.2	19.0	0.0	18.7	18.5	0.2	18.6	0.1	18.6	0.1
小学校	6歳	21.7	21.6	0.1	21.5	0.2	21.5	0.2	21.2	20.8	0.4	20.4	0.8	21.0	0.2
	7歳	24.2	24.3	△ 0.1	23.6	0.6	24.1	0.1	23.5	23.6	△ 0.1	23.1	0.4	23.5	0.0
	8歳	27.4	27.2	0.2	26.5	0.9	27.2	0.2	26.4	26.4	0.0	25.9	0.7	26.5	△ 0.1
	9歳	30.5	30.5	0.0	29.6	0.9	30.6	△ 0.1	30.2	30.0	0.2	28.8	1.4	30.0	0.2
	10歳	34.6	34.1	0.5	33.2	1.4	34.2	0.4	33.8	34.0	△ 0.2	32.8	1.0	34.1	△ 0.3
	11歳	39.0	39.9	△ 0.9	37.3	1.7	38.4	0.6	39.0	38.7	0.3	37.4	1.6	39.0	0.0
中学校	12歳	44.6	45.3	△ 0.7	41.9	2.7	44.2	0.4	43.5	44.1	△ 0.6	42.9	0.6	43.8	△ 0.3
	13歳	50.1	50.6	△ 0.5	47.8	2.3	49.1	1.0	46.3	48.1	△ 1.8	47.6	△ 1.3	47.3	△ 1.0
	14歳	55.1	55.7	△ 0.6	52.7	2.4	54.3	0.8	50.0	49.9	0.1	49.3	0.7	50.2	△ 0.2
高等学校	15歳	58.7	59.7	△ 1.0	57.9	0.8	59.5	△ 0.8	50.7	51.3	△ 0.6	51.4	△ 0.7	51.6	△ 0.9
	16歳	61.9	62.1	△ 0.2	60.2	1.7	61.3	0.6	52.1	52.7	△ 0.6	52.0	0.1	52.8	△ 0.7
	17歳	62.9	64.4	△ 1.5	61.0	1.9	63.1	△ 0.2	52.2	52.7	△ 0.5	52.0	0.2	52.9	△ 0.7

図３　平成21年度と昭和54年度（親の世代）との体重の差



注）体重の差は、都の平成 21 年度平均値から昭和 54 年度（親の世代）平均値を差し引いたものである。

④　平成 3 年度生まれ (平成 21 年度 17 歳)の年間発育量をみると、男子では 11 歳から 12 歳時に発育量が著しく増加しており、12 歳時に最大の発育量を示している。

女子では、10 歳から 11 歳時に発育量が著しく増加しており、10 歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を昭和 36 年度生まれ（親の世代の 17 歳）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代と同じ 12 歳となっているが、女子では発育量が最大となる時期は親の世代より 1 歳早い 10 歳となっている。

表４　平成3年度生まれと昭和36年度生まれの年間発育量の比較（体重）

(単位:kg)

区分		男子		女子	
		平成3年度生まれ (平成21年度17歳)	昭和36年度生まれ (親の世代の17歳)	平成3年度生まれ (平成21年度17歳)	昭和36年度生まれ (親の世代の17歳)
幼稚園	5歳	2.6	1.8	2.7	1.7
小学校	6歳	2.8	2.5	2.2	2.5
	7歳	2.9	2.1	3.1	2.0
	8歳	3.8	2.9	3.4	3.1
	9歳	3.2	4.4	3.9	4.9
	10歳	5.0	3.4	5.7	4.7
	11歳	5.6	5.3	4.3	5.3
中学校	12歳	5.7	6.4	3.9	3.8
	13歳	5.1	5.0	2.1	2.7
	14歳	5.2	4.3	1.4	2.4
高等学校	15歳	0.9	2.4	1.1	0.0
	16歳	0.8	1.9	△ 0.5	0.7
総発育量		43.6	42.4	33.3	33.8

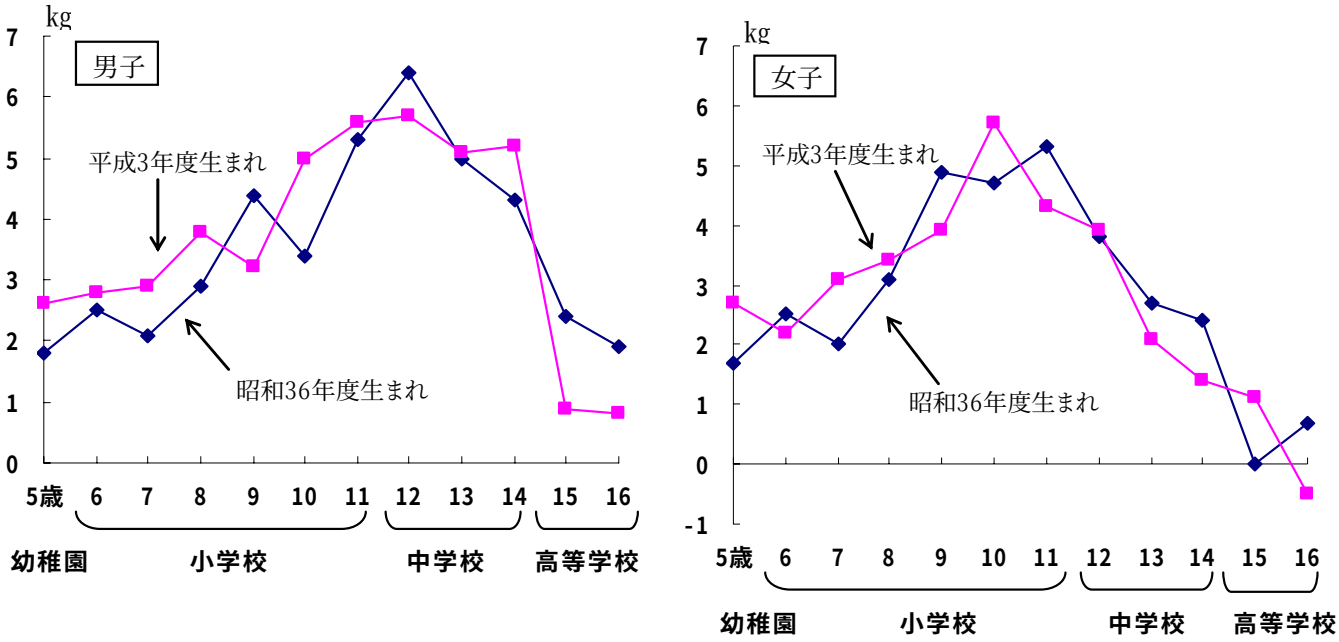
注1)　年間発育量とは、例えば、平成3年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成10年度調査6歳の者の体位から平成9年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

2)　調査対象が異なるため、平成3年度生まれ16歳女子はマイナスとなった。

3)　網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

4)　昭和36年度生まれの8歳と9歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。

図４　平成 3 年度生まれと昭和 36 年度生まれの年間発育量の比較（体重）



（3） 座　高　　（表５、図５、統計表１、統計表４）

① 平成 21 年度の男子の座高は、8 歳から 10 歳及び 16 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加した。14 歳は前年度と同数であるが、過去最高となった。

女子の座高は、9 歳から 11 歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

② 平成 21 年度の座高を昭和 54 年度生まれ（親の世代）と比較すると、最も差がある年齢は、男子は 12 歳及び 14 歳で 1.8㎝親の世代より高くなっている。女子では 11 歳で最も差が大きく 1.1㎝親の世代より高くなっている。

③ 平成 21 年度の座高を全国平均値と比較すると、男子は 5 歳、9 歳、11 歳、15 歳及び 17 歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子では、5 歳、8 歳、10 歳、13 歳から 15 歳及び 17 歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

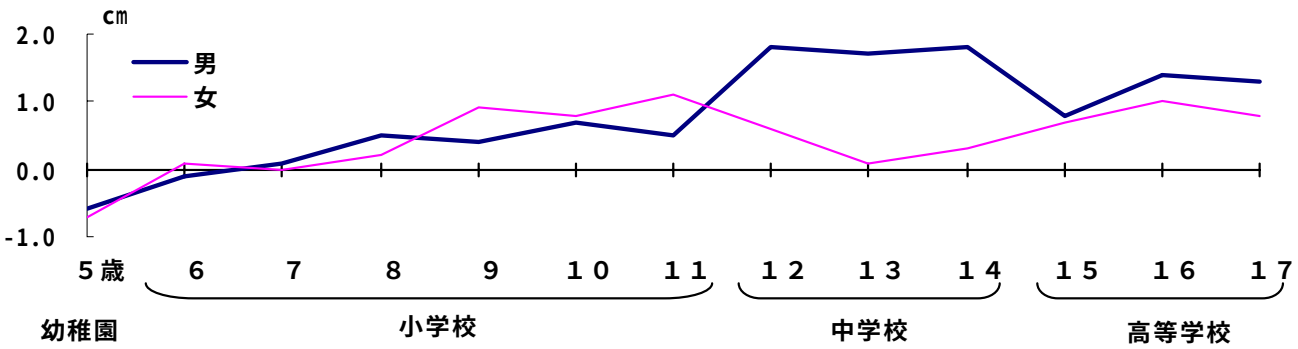
表５　年齢別座高の平均値

（単位：cm）

区分		男子							女子						
		平成21年度 A	平成20年度 B	A-B	昭和54年度（親の世代） C	A-C	平成21年度全国平均 D	A-D	平成21年度 E	平成20年度 F	E-F	昭和54年度（親の世代） G	E-G	平成21年度全国平均 H	E-H
幼稚園	5歳	61.7	62.5	△ 0.8	62.3	△ 0.6	61.9	△ 0.2	61.3	61.9	△ 0.6	62.0	△ 0.7	61.5	△ 0.2
小学校	6歳	65.2	65.2	0.0	65.3	△ 0.1	64.9	0.3	64.6	64.6	0.0	64.5	0.1	64.5	0.1
	7歳	67.8	67.9	△ 0.1	67.7	0.1	67.7	0.1	67.4	67.5	△ 0.1	67.4	0.0	67.3	0.1
	8歳	70.6	70.4	0.2	70.1	0.5	70.3	0.3	69.8	69.8	0.0	69.6	0.2	70.0	△ 0.2
	9歳	72.7	72.6	0.1	72.3	0.4	72.7	0.0	73.0	72.8	0.2	72.1	0.9	72.7	0.3
	10歳	75.2	74.8	0.4	74.5	0.7	75.0	0.2	75.8	75.7	0.1	75.0	0.8	75.9	△ 0.1
	11歳	77.6	78.3	△ 0.7	77.1	0.5	77.6	0.0	79.4	79.0	0.4	78.3	1.1	79.3	0.1
中学校	12歳	81.5	81.7	△ 0.2	79.7	1.8	81.3	0.2	82.3	82.5	△ 0.2	81.7	0.6	82.1	0.2
	13歳	85.2	85.2	0.0	83.5	1.7	84.9	0.3	83.5	84.0	△ 0.5	83.4	0.1	83.7	△ 0.2
	14歳	88.6	88.6	0.0	86.8	1.8	88.1	0.5	84.8	84.8	0.0	84.5	0.3	84.8	0.0
高等学校	15歳	90.1	90.2	△ 0.1	89.3	0.8	90.3	△ 0.2	85.2	85.5	△ 0.3	84.5	0.7	85.3	△ 0.1
	16歳	91.3	91.1	0.2	89.9	1.4	91.2	0.1	85.7	85.7	0.0	84.7	1.0	85.6	0.1
	17歳	91.7	91.7	0.0	90.4	1.3	91.8	△ 0.1	85.7	86.1	△ 0.4	84.9	0.8	85.7	0.0

注）平成21年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む）を網掛けで示している。

図５　平成21年度と昭和54年度（親の世代）との座高の差



注）座高の差は、都の平成 21 年度平均値から昭和 54 年度（親の世代）平均値を差し引いたものである。

2　健康状態

（1）　主な疾病・異常等の状況　　（表６、統計表５-１、参考表）

① 学校種類別に主な疾病・異常の被患率をみると、全ての学校種類で「むし歯（う歯）」の者の割合が高くなっている。また、中学校では「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合が高くなっている。

② 全国平均値と比較すると、全ての学校種類で「むし歯（う歯）」の被患率は全国平均値より低くなっている。

表６　学校種類別　主な疾病・異常等の状況

（単位：%）

	幼稚園	東京都	全国	小学校	東京都	全国	中学校	東京都	全国	高等学校	東京都	全国
1	むし歯（う歯）	34.3	46.5	むし歯（う歯）	55.5	61.8	裸眼視力1.0未満の者	56.8	52.5	むし歯（う歯）	55.3	62.2
2	アトピー性皮膚炎	4.0	3.1	裸眼視力1.0未満の者	34.4	29.7	むし歯（う歯）	50.4	52.9	鼻・副鼻腔疾患	12.0	9.6
3	眼の疾病・異常	3.6	2.1	鼻・副鼻腔疾患	14.1	12.6	鼻・副鼻腔疾患	11.1	10.8	歯垢の状態	6.5	5.3
4	鼻・副鼻腔疾患	3.5	4.0	耳疾患	7.0	5.5	歯垢の状態	6.1	5.2	歯列・咬合	5.3	4.2
5	耳疾患	3.2	2.9	眼の疾病・異常	6.6	5.3	歯列・咬合	5.8	5.4	歯肉の状態	5.1	5.4
							歯肉の状態	5.8	4.9			

注１）「裸眼視力1.0未満の者」の幼稚園及び高等学校は、疾病・異常被患率等の標本誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が 1校以下のため統計数値が公表されていない。

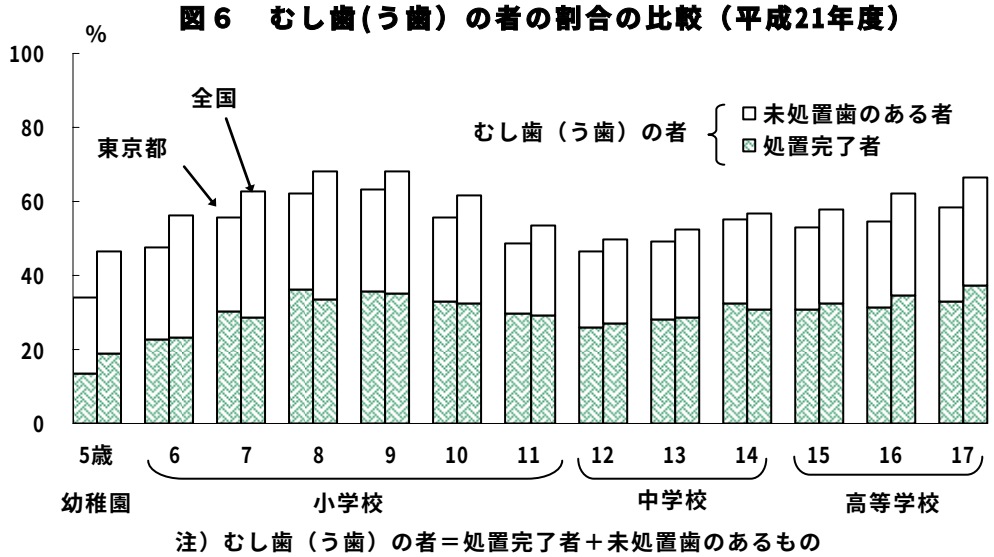
２）全国の数値は、小数点第2位を四捨五入している。

a)　むし歯（う歯）　　（図６、統計表５－１、参考表）

① 年齢別に「むし歯（う歯）」の者の割合をみると、5 歳から 9 歳までは年齢が高くなるにつれて上昇し、10 歳から 12 歳までは低下している。その後 13 歳及び 14 歳で上昇するが 15 歳で再度低下し、16 歳以降上昇している。

② 全国平均値と比較すると、すべての年齢で「むし歯（う歯）」の者の割合は低くなっている。

図６　むし歯(う歯）の者の割合の比較（平成21年度）



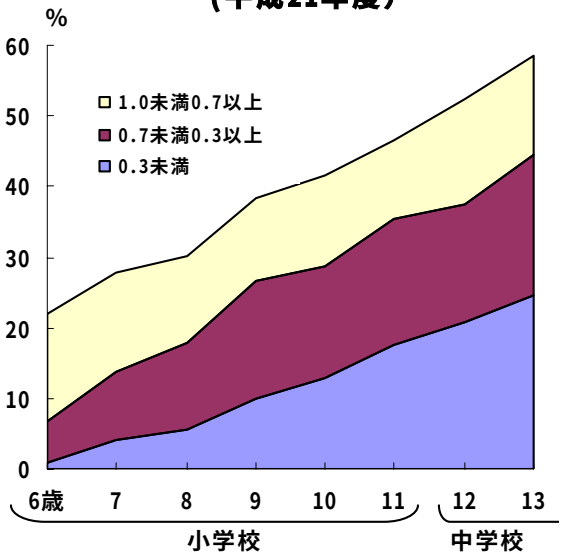
注）むし歯（う歯）の者＝処置完了者＋未処置歯のあるもの

b)　裸眼視力 1.0 未満の者　　（図７、図８、統計表５-１、参考表）

①　年齢別に「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合をみると、年齢が高くなるにつれて割合が上昇し、また「0.3 未満の者」が全体に占める割合も高くなっている。

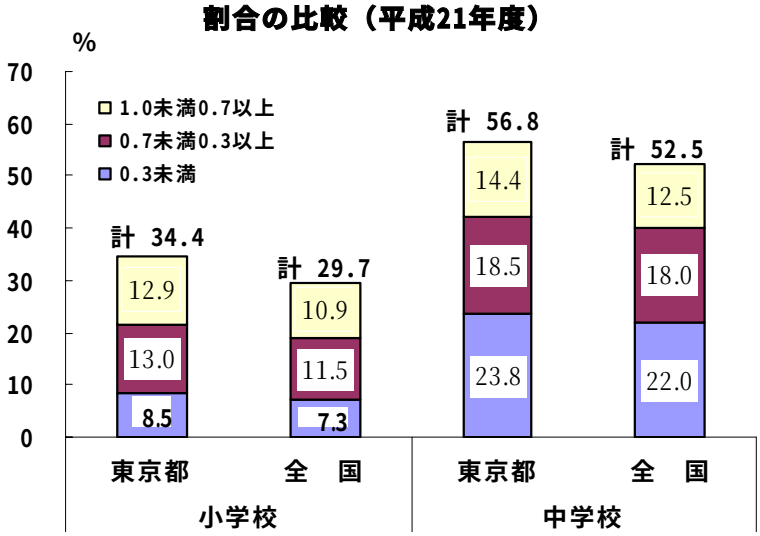
②　全国平均値と比較すると、小学校、中学校の各学校種類で全国平均値より高くなっている。

図７　裸眼視力1.0未満の者の割合（平成21年度）



注）14歳は、疾病･異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人未満または回答校が1校以下のため統計数値が公表されていない。

図８　学校種類別　裸眼視力1.0未満の者の割合の比較（平成21年度）



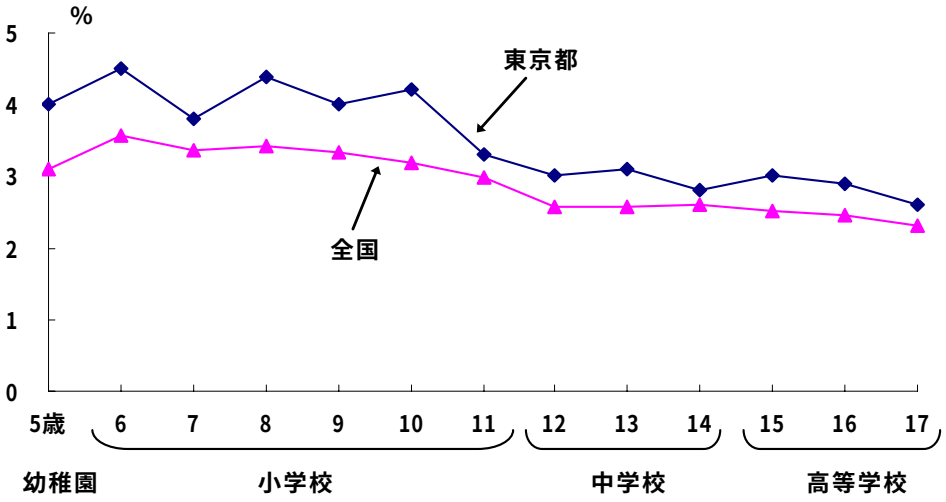
注）全国の数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。

c)　アトピー性皮膚炎　　（図９、統計表５-１、参考表）

①　年齢別に「アトピー性皮膚炎」の者の割合をみると、７歳を除く５歳から 10 歳までが４％台となっている。

②　全国平均値と比較すると、すべての年齢で全国平均値より「アトピー性皮膚炎」の者の割合は高くなっている。

図９　アトピー性皮膚炎の者の割合の比較（平成21年度）

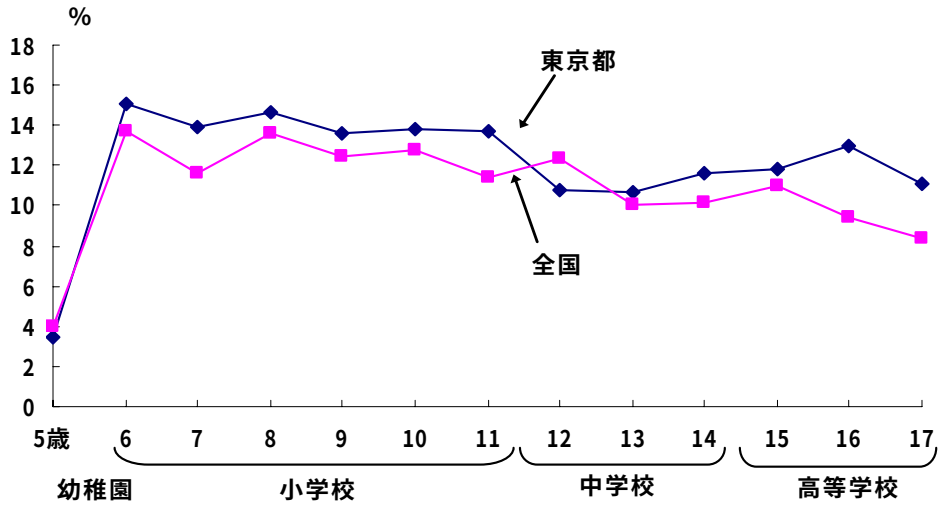


d) **鼻・副鼻腔疾患**　（図 10、統計表５- １、参考表）

① 年齢別に「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合をみると、5 歳を除くすべての年齢において、10%を超えている。

② 全国平均値と比較すると、5 歳及び 12 歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

図10　鼻・副鼻腔疾患の者の割合の比較（平成21年度）

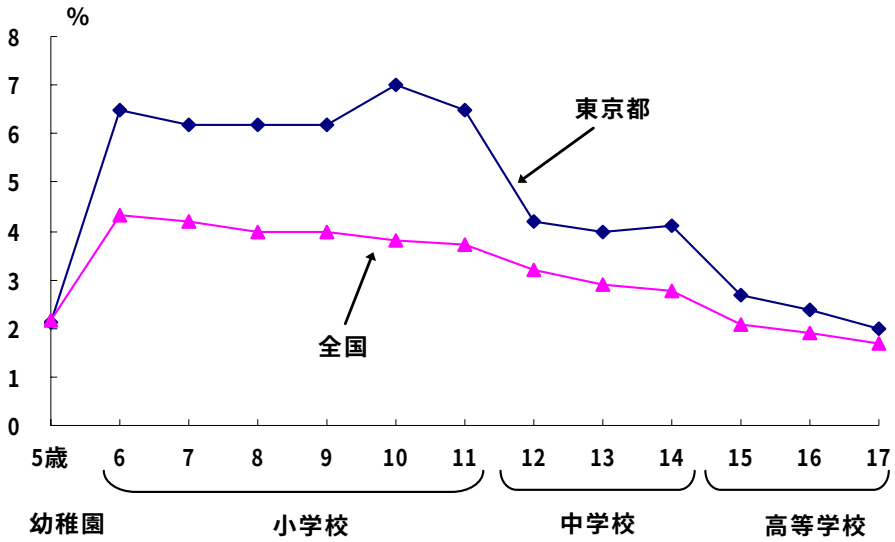


e) **ぜん息**　（図 11、統計表５- １、参考表）

① 年齢別に「ぜん息」の者の割合をみると、6 歳から 11 歳で 6%を超え、特に 10 歳では 7.0%となっている。11 歳以降は年齢が高くなるにつれて割合が低下する傾向となっている。

② 全国平均値と比較すると、5 歳を除く各年齢において「ぜん息」の者の割合は高くなっており、10 歳では 3.2 ポイント全国平均値を上回っている。

図11　ぜん息の者の割合の比較（平成21年度）



3　肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

（1）　肥満傾向児の出現率　（図 12、図 13、統計表６）

① 年齢別に肥満傾向児の出現率をみると、男子は 11 歳までは年齢が高くなるにつれて上昇する傾向にあり、10 歳からのすべての年齢で 10%を超えている。女子は、8 歳までは年齢とともに上昇している。

② 全国平均値と比較すると、男子は 6 歳、8 歳、9 歳及び 15 歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。
女子は、8 歳を除く各年齢で全国を下回っている。

図12　肥満傾向児の出現率の比較（男）

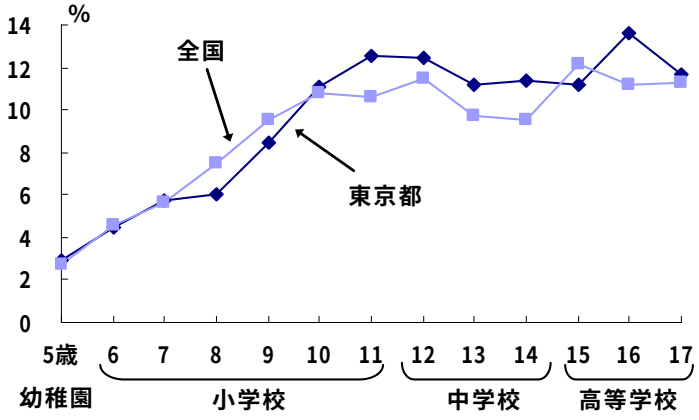
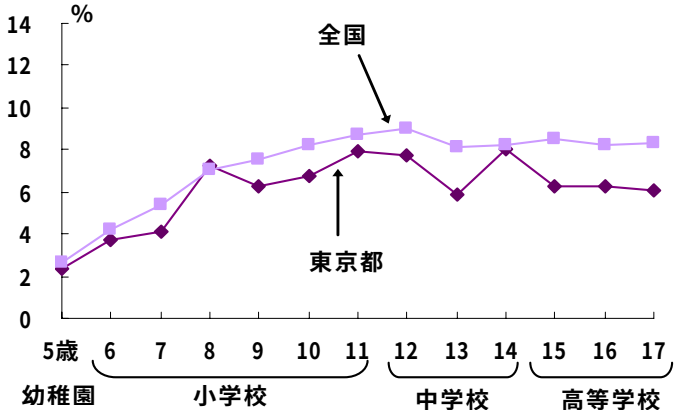


図13　肥満傾向児の出現率の比較（女）



（2）　痩身傾向児の出現率　（図 14、図 15、統計表７）

① 年齢別に痩身傾向児の出現率をみると、男子は 8 歳から 11 歳にかけて上昇するが、12 歳、13 歳で一旦低下する。その後、14 歳から 15 歳で再度上昇している。
女子は、増減があるものの年齢が高くなるにつれ上昇し、12 歳で最も高くなりその後減少している。

② 全国平均値と比較すると、男子は全国平均値とはぼ同様の傾向を示している。
女子は都、全国平均値ともに 12 歳で最も高くなっている。

図14　痩身傾向児の出現率の比較（男）

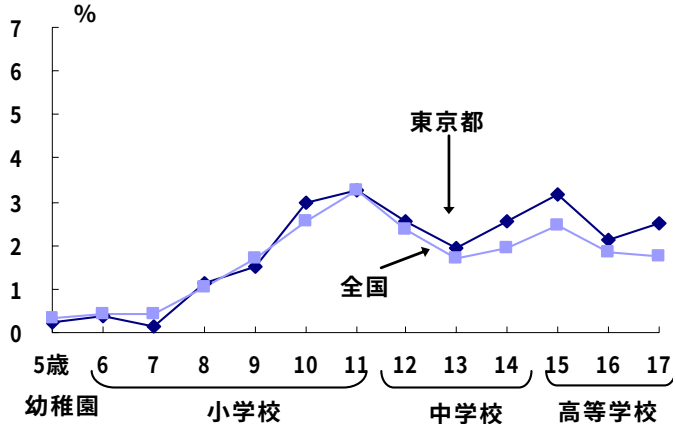
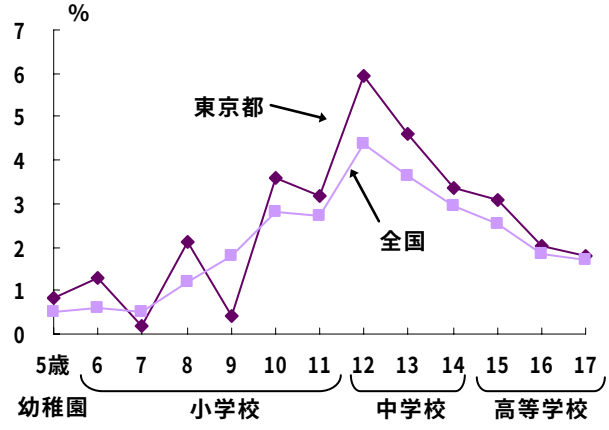


図15　痩身傾向児の出現率の比較（女）



・肥満度の求め方は以下のとおりである。

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め，肥満度が 20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。
算式は以下のとおりである。

肥満度＝〔実測体重(kg)－身長別標準体重(kg)〕/ 身長別標準体重(kg)× 100（%）

※身長別標準体重(kg)＝ａ×実測身長(cm)－ｂ

係数 / 年齢	男		女	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成18年